

事務事業マネジメントシート (21年度実績と22年度計画)

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 26 日 作成
 21年度決算把握後 平成 22 年 月 日 作成

事務事業名		消防協会参画事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連							
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり			所属部	総務企画部	課長名	後藤一男				
	施策	1	危機管理防災対策の推進			所属課	総務課	担当者名	田代純児				
	基本事業	1	災害の未然防止対策			所属班	交通防災班	(内線)	1225				
予算科目	会計	1	款	9	項	1	目	2	事業連番	10008	法令根拠	成果優先度評価結果	12
												コスト削減優先度評価結果	6
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 21年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 S23 年度)		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)							

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	協会が定める消防団員等に対する甲慰救済金及び福祉事業などの福利厚生、および協会が主催する消防操法大会、消防学校での団員指導員研修など、消防技術の向上、消防活動の強化を図り、消防思想の普及徹底を目的に組織された。消防団の伝統・恒例行事と関連していくため、特段の状況変化はみられない。
【業務の流れ】	各種研修、大会の申し込み、消防団への調整、支払い、優良消防団・消防功労者等の表彰申請、受領 負担金の支払い
【主な予算費目】	役務費(団員福祉共済掛金)、負担金
【意見や要望】	特になし
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)	22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
各種研修大会に参加。 負担金の支払い。	各種研修大会に参加。 本年度は、消防操法大会開催(2年毎) 負担金の支払い。
④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位)	⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)
⇒ ア 当協会主催行事参加数 回 イ	⇒ ア 消防団員数 人 イ
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 消防協会	⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 目的に沿った活動ができる	⇒ ア 福祉事業の利用者数 人 イ

*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠
 成果指標設定理由:消防団員が安心して目的に沿った活動ができるよう、協会が定めた団員甲慰救済金及び福祉事業などの福利厚生の利用者数値を設定した。
 平成22年度目標値設定根拠:過去2カ年(H20.H21)の実績値の平均

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込
④ 活動指標	ア 回		5	4	5	5	5	5	5
	イ								
⑤ 対象指標	ア 人		745	745	745	745	745	745	745
	イ								
⑥ 成果指標	ア 人		5	5	5	2	3	3	3
	イ								
投資 入 量	事業 内 訳	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		繰入金	千円						
		一般財源	千円	1,953	2,444	2,457		2,451	2,451
	(A) 事業費計	千円	1,953	2,444	2,457	0	2,451	2,451	2,451
		(A)のうち指定経費	千円	207	207	207	207	207	207
		(A)のうち時間外、特勤	千円						
		正規職員従事人数	人	3	4	4	5	5	5
(B)人件費	延べ業務時間	時間	60	80	80	90	90	90	90
	(B)人件費計	千円	238	320	318	358	358	358	358
	トータルコスト(A)+(B)	千円	2,191	2,764	2,775	358	2,809	2,809	2,809

総トータルコスト
 全体計画
 ~ 年度

(期間限定複数年度のみ記載)

0
0
0

事務事業名	消防協会参画事業	所属部	総務企画部	所属課	総務課
-------	----------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部 (SEE)

*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input type="checkbox"/> 達成した	<input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】 ↷
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 ↷
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 ↷	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 ↷
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 ↷
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ↷
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ↷
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 ↷
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 ↷

3 評価結果の総括(SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

消防協会が主催する消防団員指導員研修や会議(3回)に参加。
初めて開催した女性消防団員による消防操法大会に応援見学として参加。
当協会が定める甲慰救済金及び福祉事業の受付、申請。
当協会が定める優良消防団員、消防功労者等の表彰申請。
負担金および福祉共済制度掛金の支払い。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- 廃止 休止 目的再設定 事業統廃合・連携 事業のやり方改善(有効性改善)
 事業のやり方改善(効率性改善) 事業のやり方改善(公平性改善)
 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

協会が行う福祉事業等について、消防団員一人ひとりへの周知が難しい。
幹部会議や班長会議などで更なる周知を図り、対象者には利用を促す。